

〔貞丈雜記調度〕一蒲團と云は、圓座の事なり、蒲と云草の葉にて、圓く組みたる物ゆゑ、蒲團と云ふなり、今の世、褥の事を、蒲團といふはあやまりなり、

〔玉勝間五〕ふとん

今世に寝る所に敷物を布團フダンといふは、いにしへ布單フダンといひし物あり、布毯フダンとも書たり、此物より轉れるなるべし、

〔近代世事談〕蒲團 布子

或人云、ふとんは蒲にて作りたる圓座也、今云ふとんにあらず、今のふとんは衾キナといふもの也と云り、左にあらず、やはり蒲團也、木綿ワタわたらざる以前は、庶人の冬の衣服には、布に蒲蘆の穂わたを入てきたり、よつて布子の名あり、蒲團また同じ、蒲の穂を團て入る、よつて蒲團の名あり、古へも貴人は蠶綿を以つくれり、これ其衾なるべし、古きふすまなどよみしは是也、

〔松屋筆記 百十五〕蒲團

蒲團は圓座の事也、蒲の葉を圓く組て造れる故、蒲團といふ、今世褥シトキを蒲團といふは誤也、褥はシタノベにて、下に敷延るものなればいふ、シタのタをトに通はし、ノベを約て、ネといへる也、

〔婚禮法式下〕夜具之部

一夜の御マとねの事、御寝なり候時、敷候御マとねなり、夜のおマしとも云、敷不定色なども不定也、大サは中鏡三幅、長サ六尺なり、地は綾、へりは唐織物なり、へりのはは五寸なり、へりのさし様上は一文字にして、下はすみちがへに、すみを合せぬふべし、四すみにふさを付る也、

〔守貞漫稿十八 雜服附雜事〕夜著蒲團略 中

今世夜著ヲ用フ、大略遠州以東ノミ、三河以西京坂ハ襟袖アル夜著ト云物ヲ用ヒズ、然ドモ昔ハ京坂モ用之歟、元文等ノ古畫ニ有之、今ハ下ニ三幅ノ布團ヲシキ、上ニ五幅ノ布團ヲ著ス、寒風ニ